

松山大学図書館書評賞 全体講評

審査委員長 法学部准教授 甲斐 朋香

今年度は 24 人の応募者による 25 編の作品が集まりました。最優秀賞にふさわしいと思われる作品は、今年度も残念ながら輩出されませんでしたが、まずは「書評を書く」という（おそらくは初めての）作業に挑戦された皆さんに拍手を送ります。

今回特筆すべきは、一人で入賞に値する作品を複数提出してくれた応募者がいたこと、また、入賞には至りませんでしたが、『老人と海』や『初恋』のような、少し時代を経た小説に挑戦してくれた応募者がいたことです。

「今」を捉える小説や論説を読むときも、そうでないときも、少し視野を拡げて、その著作物が書かれ、読まれた背景や、その位置づけなども意識すると、書評にも奥行きが出てきます。

また、同一の小説について複数の応募者から書評が提出されたことも興味深いことでした。同じものを読んでも、感じることや得るものは人それぞれです。時には身の周りのお友だちと同じものを読み、その感想をお互いに述べあうことも、嬉しいかもしれません。

読書はあなたの世界を拡げ、深めてくれます。そして、読書は一見孤独な営為のようにも思えますが、時にはあなたと、何処かにいる誰かとをつなげてくれることもあるのです。あなたのための一冊を探しに、図書館に是非また足を運んでください。